



園長だより



あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお
願い致します。さて、昨年の漢字は「災」でした。全国からの投票によって決まっている
ようですが、去年は北海道や大阪で地震があったり、西日本豪雨、台風21号、24号な
どもあり、記録的な猛暑もありました。また、パワハラ問題や改ざん、不正などのニュー
スも多く「人災」もありました。今年はずっと明るいニュースが多い年になることを願っ
ています。

ここで聖書の言葉を紹介いたします。「イエスは、また人々に語ってこう言われた、「わ
たしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光を
もつであろう。」ヨハネによる福音書 8:12 子供の頃は暗いところが嫌いでした。二階の
ベッドに一人で行くのが怖く、母親と一緒に一緒に行ってもらったこともありました。また、電
気をつけると、数秒前まで怖かったところがあまり怖くなくなることもしばしばありまし
た。

聖書では、神様であられるイエス・キリストがこの暗い世界に輝く光であると述べて
います。これは、恐れや不安を抱く時に共にいてくださり、希望になってくださるとい
うことです。暗い気持ちになった時や、悲しい気持ち、不安になった時にはこの聖書の言葉
を思い出していただければと思います。ここで一つの詩を紹介いたします。

「あしあと」

ある夜、わたしは夢を見た。わたしは、主とともに、なぎさを歩いていた。暗い夜空
に、これまでのわたしの人生が映し出された。どの光景にも、砂の上にふたりのあしあと
が残されていた。ひとつはわたしのあしあと、もう一つは主のあしあとであった。
これまでの人生の最後の光景が映し出されたとき、わたしは、砂の上のあしあとに目を留
めた。

そこには一つのあしあとしかなかった。わたしの人生でいちばんつらく、悲しい時だ
った。このことがいつもわたしの心を乱していたので、わたしはその悩みについて主にお
尋ねした。「主よ。わたしがあなたに従うと決心したとき、あなたは、すべての道におい
て、わたしとともに歩み、わたしと語り合ってくださいと約束されました。それなのに、
わたしの人生のいちばんつらい時、ひとりのあしあとしかなかったのです。いちばんあな
たを必要としたときに、あなたが、なぜ、わたしを捨てられたのか、わたしにはわかりま
せん。」

主は、ささやかれた。「わたしの大切な子よ。わたしは、あなたを愛している。あな
たを決して捨てたりはしない。ましてや、苦しみや試みの時に。あしあとがひとつだった
とき、わたしはあなたを背負って歩いていた。」マーガレット・F・パワーズ translation
copyright(C)1996 by Pacific Broadcasting Association

聖書の神様はいつも祈りを聞かれ、共にいてくださいます。2019年、皆様のご家庭が
祝福で満たされ、幸福な一年となりますようお祈りしております。

2019年1月7日

石川三育保育園 園長 ミラー・ジョエル